

=====

◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.163◇

2024年2月9日号(第163号)

=====

―――◇◆ INDEX ◆◇―――

1. 第39回資源植物科学シンポジウム・第15回植物ストレス科学研究シンポジウムのご案内

2. 植物科学分野オンラインリソースの紹介

3. 大学院進学説明会(オンライン開催)のお知らせ

4. 投稿のお願い

5. 編集後記

―――◆◇◆◇―――

1. 第39回資源植物科学シンポジウム・第15回植物ストレス科学研究シンポジウムのご案内 【明日参加登録締め切り】

当研究所では、下記の要領で第39回資源植物科学シンポジウム・第15回植物ストレス科学研究シンポジウムを開催します。

開催日時：2024年2月26日(月) - 2月27日(火)

会場：倉敷市芸文館アイシアター

今回のテーマは「植物科学の基礎から応用まで」です。

明日2024年2月10日が参加登録(参加無料)の締め切りとなります。参加予定の方でまだ登録を完了していない方は、下記URLよりシンポジウムのウェブページにアクセス頂き参加登録をお願いいたします。

<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/sympo/sympostress2024/index.html>

プログラム

2月26日(月)

12:30 - 受付

13:00 - 開会挨拶

座長 平山 隆志

13:10 - 経塚 淳子(東北大学)

植物の栄養繁殖の制御

13:45 - 森田 美代(基礎生物学研究所)

重力屈性における重力感知機構

14:20 - 有村 慎一(東京大学)

葉緑体とミトコンドリアのゲノム編集

14:55 - 休憩

座長 鈴木 信弘

15:15 - 晝間 敬(東京大学)

植物と糸状菌の共生から寄生と多様かつ連続的な相互作用

15:50 - 市橋 泰範(理化学研究所)

## 農業生態系のマルチオミクス研究

座長 山本 敏央

16:25 - 金 俊植 (岡山大学/理化学研究所)

オオムギの野外栽培における春播性の遺伝解析

17:00 - 松島 良 (岡山大学資源植物科学研究所)

穀類胚乳の澱粉合成に関する遺伝学的研究

18:00 - 研究交流会 (シャトー・ドウ・フェリシオン)

2月27日 (火)

座長 河野 洋治

9:00 - 澤 進一郎 (熊本大学)

植物感染性線虫の感染機構の解析機構の解明

9:35 - 安達 広明 (京都大学/JST さきがけ)

NLR タンパク質による植物免疫機構の包括的理解を目指して

10:10 - 深田 史美 (岡山大学資源植物科学研究所)

イネの免疫を制御する RALF ペプチドの機能解析

10:45 - 休憩

座長 Ivan Galis

11:00 - 小西 範幸 (岡山大学資源植物科学研究所)

効率的な養分吸収に必要な輸送体極性局在の解析

11:35 - 松井 健二 (山口大学)

香り化合物を用いた植物の環境適応戦略

12:10 - 閉会

### 【問い合わせ先】

岡山大学資源植物科学研究所

馬 建鋒

TEL: (086) 434-1209

E-mail: [maj@okayama-u.ac.jp](mailto:maj@okayama-u.ac.jp)

## 2. 植物科学分野オンラインリソースの紹介

みなさんは、「Earth Biogenome Project (EBP)」と呼ばれる巨大な国際コンソーシアムが主導するゲノムプロジェクトが進行中であることをご存知でしょうか？このプロジェクトは、この先10年余りの間に、地球上のあらゆる生物種の参照ゲノム配列を構築しカタログ化しようというものです。カリフォルニア大学デービス校の Harris A. Lewin 教授を筆頭に、多種多様なゲノムプロジェクトを相互連携させる形で2018年から開始されました。当初の計画では、最初の3年間で「真核生物のうち9000弱の科 (family) からそれぞれ最低1種 (species) に対して、染色体スケール参照ゲノム配列を構築する」という目標を掲げていたようです。しかし、現時点でEBPにおいて参照ゲノム配列が構築されたのは898科2365種となっています。目標を達成することはできていませんが、膨大な数の高品質ゲノム配列情報が生み出されています。また、EBPで生み出されるゲノム情報の品質を高く保つため、構築されたゲノム配列の品質判定基準やアノテーションの方法などの標準化が試みられています。

EBP に参画しているプロジェクトには「10,000 Plant Genomes (10K P)」(10,000 種の植物や真核微生物)や「Ag100 Pest (USDA)」(100 種の害虫)など、植物ストレス科学研究に関連しそうなものも存在します。今後の継続と発展を期待して、この「ゲノム情報版ノアの方舟」に注目していきましょう。

- Earth Biogenome Project ウェブページ URL  
<https://www.earthbiogenome.org/>

### 3. 大学院進学説明会(オンライン開催)のお知らせ

岡山大学資源植物科学研究所では、下記の日程にてオンライン大学院説明会を開催いたします。参加を希望される方には事前申し込みをお願いしております。申し込み締め切りは3月5日(火)です。

#### 【日程】

第1回: 2024年3月11日(月) 13:00 - 17:00頃  
第2回: 2024年3月12日(火) 13:00 - 17:00頃

詳細や申し込みフォームは、下記 URL をご確認ください。

[https://www.rib.okayama-u.ac.jp/grdsh/Daigakuin\\_J/setsumeikai.html](https://www.rib.okayama-u.ac.jp/grdsh/Daigakuin_J/setsumeikai.html)

### 5. 投稿のお願い

本メールマガジンや Web サイトでは、植物ストレス科学の研究成果や研究に関する情報の共有を目指しています。

(<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>)

PSSNet メンバーの皆様の最新の論文、関連集会やセミナーの案内、人材募集などの共有可能な情報の投稿をお待ちしております。

ご希望の方は、[pssnet-admin@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnet-admin@okayama-u.ac.jp) 宛に情報をお送りください。

また、メーリングリストへの情報提供も随時受け付けております。

セミナーや講演会の開催など、お急ぎの情報は下記宛てにお送り下さい。

[pssnetml@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnetml@okayama-u.ac.jp)

(お送り頂く際には、PSSNet に登録しているメールアドレスからお願い致します)

### 6. 編集後記

先月中頃にアメリカのサンディエゴで開催された Plant and Animal Genome 31 (PAG31) に参加して来ました。本メールマガでも紹介した Earth Genome Project に関連した発表も複数ありましたし、それ以外にも大規模なゲノムプロジェクトの話題は多かった印象です。このような大規模ゲノムプロジェクトのゴールとして、「pan genome の構築」が掲げられるのは良くあることですが、個々のゲノムアセンブリ間や異なるプロジェクトで生み出されたゲノムアセンブリに付された遺伝子 ID をどう整理するかという議論もなされていました。今後様々な種や属、科レベルでの pan genome 構築が進む中で、現在それぞれの生物種でお馴染みの遺伝子 ID が使われなく(使えなく?) なっていくかもしれませんね。データ量が飛躍的に増えることで、データサイズを抑えるためのデータ形式や高速なデータ検索のアル

ゴリズムなど、計算機科学サイドの課題も考える必要があるようです。この膨大なデータをどう活かすかが問われていますね。

さて、本メルマガでは各号で前月1ヶ月間に発表された植物科学研究所関連の論文を紹介する「最近の研究成果について」というコーナーがあります。先月は1報もありませんでしたので、今号では当該コーナーはお休みとなっております。

\*\*\*\*\*

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」

■発行日 2024年2月9日

■発行元 岡山大学資源植物科学研究所  
植物ストレス科学研究ネットワーク(PSSNet)委員会

■WEBサイト <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>

メールマガジン登録変更・解除の手続きは

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/Registermember.htm>

をお願いします。

\*\*\*\*\*

(このメールは岡山大学職員が配信しています)

---

pssnetml mailing list

[pssnetml@okayama-u.ac.jp](mailto:pssnetml@okayama-u.ac.jp)